

2000年2月28日

サッポロビール株式会社

代表取締役

岩間 辰志様

東京消費者団体連絡センター（加盟42団体）

事務局長 佐藤正徳

<事務局>

中野区中央 5-41-8

Tel03-3383-7991

日本アルコール問題連絡協議会（加盟13団体）

会長 上野 佐

<事務局>

中央区日本橋浜町 3-19-3 ソグノ 21 ビル

（アルコール問題全国市民協会内）

Tel03-3249-2551

## ボトル型新容器についての申し入れ

スクリューキャップ付のアルミ製ボトル型新容器入りビールを貴社と麒麟ビール株式会社が発売する旨、1月6日付の朝日新聞・日本経済新聞の報道で知りました。

この新容器というならばビールの水筒のようなもので、若者たちの間に浸透している清涼飲料の小型ペットボトルのように、どこにでも携帯して気軽にラッパ飲み（口飲み）することができます。また、缶ビールは歩きながら飲むとこぼれてしまいますが、ボトル型容器から口飲みすればこぼれないため、朝日新聞にあるように「歩きながら気軽にビールを飲む」という飲酒スタイルも可能にしてしまいます。つまりこの容器は、いつでもどこでも飲めるという危険な飲酒スタイルを若者たちに提案してしまう恐れがあるのです。

すでに、小型ペットボトル入りリキュール類やワインを数社が発売しています。これに今回のボトル型ビールが加わり、テレビやポスター等でラッパ飲みシーンが堂々と映されれば、酒類をラッパ飲みすることへの抵抗感が消え、この風潮は一気に広まってしまおうでしょう。なお、小型ペットボトルの酒類については、メーカーとの話し合いの結果、テレビでの宣伝は自粛する旨、回答をいただいています。

貴社および麒麟ビール株式会社に問い合わせたところ、麒麟ビール株式会社からは早々に「社会的な配慮として、この容器から直接口飲みするシーンは宣伝に使わない」という明快な回答をいただきました。しかし貴社からは、「歩き飲みやイッキ飲みのシーンは

出さない」との回答があっただけで、口飲みに関しては明快な回答をいただけませんでした。それもそのはず、貴社のホームページにはリアルビデオプレイヤーでのラップ飲みシーンが堂々と映っているのです。このシーンによって、貴社が問題の本質をまったく理解していないことが明白になりました。

私たちは消費者問題及びアルコール関連問題の予防に携わる団体として、以下のことを強く申し入れます。3月10日(金)までに文書でご回答くださるようお願いいたします。アルコール飲料は致酔性・依存性という特性をもち、社会的な配慮が必要です。良識ある酒類メーカーとしてのご回答を期待しています。

## 記

ボトル型容器から直接口飲みするシーンを宣伝に使わないこと。

以上

### 《東京消費者団体連絡センター代表委員団体》

東京都地域婦人団体連盟、 東京都地域消費者団体連絡会、 主婦連合会、  
東京都生活学校連絡協議会、 新婦人の会 東京都本部、  
東京都生活協同組合連合会

### 《日本アルコール問題連絡協議会参加団体》

アルコール問題全国市民協会(ASK)、 アディクション問題を考える会(AKK)、  
日本キリスト教婦人矯風会、 日本アルコール・薬物医学会、  
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会、 飲酒運転に反対する市民の会  
イッキ飲み防止連絡協議会、 全日本断酒連盟、 救世軍日本本営、  
国際グッドテンブラーズ、 日本禁酒禁煙協会、  
日本禁酒同盟、 QBE 保険会社